

# 令和6年度 都城市立今町小学校 学校自己評価・学校関係者評価書

## 1 学校の経営方針

- 【教育目標】 心優しく実践力のある今町っ子の育成
- 【校訓】 やさしく・かしこく・元気よく
- 【めざす児童像】 ・やさしい子ども（徳） ・よく考える子ども（知） ・やりぬく子ども（体）
- 【めざす学校像】 ・明るい学校（思いやり・自主性・活気） ・美しい学校（学校環境の整備） ・きまりよい学校（礼儀・秩序・安全）
- 【めざす教師像】 ・子どもを大事にする教師（人間愛） ・授業を大切に工夫する教師（指導力） ・広い視野に立ち、みんなから信頼される教師（謙虚・健康）

## 2 学校評価の結果

（8割以下黄色）

（学校自己評価及び学校関係者評価の評価方法 4段階 A:期待以上 B:ほぼ期待通り C:やや期待を下回る D:改善を要す）

評価項目	評価指標	具体的取組	肯定的回答の割合（%）			学校自己評価		学校関係者評価(学校運営協議会委員)		
			児童	保護者	教師	評価の内容 ◎:成果・効果等 ●:課題等 ◇:対策等	自己評価	評価の内容 ◎:成果・効果等 ●:課題等	評価	
学力の向上	学力向上・学習指導の充実	・思考力、表現力を伸ばす授業 ・個別指導の工夫	96	90	83	◎授業に対して、前向きに取り組む児童が多い。 ◎個別に声掛けをしたり個別指導をしたりと、子にに応じた対応ができた。 ◎子供が分からないことを伝えることができるようになってきた。 ●学力の個人差が大きい。◇「こどもが主役」の授業を展開し、学力向上を図っていく。	A(90)	◎授業態度は、概ねよい。◎授業参観で児童の様子を見て、積極的だと思う。 ◎参観日の時しか見ていないが、みんな積極的に意欲をもって取り組んでいた。 ●遅れが気になる児童について、補助の先生かボランティアの導入等も考えていく必要があるのではないかな。	A(3.7)	
	基本的な学習習慣の定着	・「話す人を見て聞く、チャイムの合図を守る、準備をして休む」の定着	88	91	38	◎基本的に学習習慣は身についてきている。 ●「は・ち・じ」の徹底がもう少しだった。 ◇子供たちへの周知、指導を継続していく。	B(72)	◎参観では、よくできていると感じるが、先生方の評価は低く、違いが見られる。 ◎教師や他の児童の発言の時には、しっかりと聞く姿勢が見られた。	B(3.4)	
	学習指導方法の充実	・ICT活用 ・家庭学習の充実	88	72	75	◎授業でのICT活用は進んできた。 ●家庭学習が学力に結びつくような工夫が必要である。意欲が低い子への手立てが必要である。 ◇家庭と学校の連携を密にしていきたい。	B(78)	◎ICT活用が進んでいる。◎児童は、タブレットを使いこなしているように見える。 ◎ICTを活用しながらお互いの意見や考えに気付いていく姿勢が見られた。 ●タブレットの取り扱いの理解には、個人差があったように感じた。ICT活用うまく乗り切れていない児童もいるのではないかな。 ●視力・指先の器用さ・ネットリテラシーなどの対処を充実させほしい。家庭では、十分に行えないため。 ●家庭と学校の連携の仕方を工夫して慎重に取り組んでほしい。	B(3)	
心の教育の充実	基本的な生活習慣の育成	・日常指導(あいさつ、言葉遣い、学校のきまり)	87	89	88	◎「はちじ」の合い言葉が浸透しており、時間を意識して行動する児童が増えている。 ◎廊下歩行、無言の場での過ごし方と課題がある。 ◎廊下歩行、無言の場での過ごし方について、場を捉えて指導するとともに、意識付けできる取り組みを企画実践する。	B(88)	◎特に問題はないように見える。 ◎今町地区だけでなく近隣地区からも挨拶がよいと評価をいただいている。 ◎仲がよいように感じる	B(3.3)	
	豊かな心を育む教育	・体験活動(校外活動、交流活動、人材活用等)の工夫	90	91	75	◎体験活動への期待値が高く、意欲的に取り組む児童が多く見られた。 ●体験学習のタイミングが教科進度と若干ずれたため、教科時数の確保が難しいときがあった。 ◇年間計画等と照らし合わせて計画を立てていく。	B(85)	◎体験活動は、大いにやっていただきたい。(校外学習の際に、公園等のゴミ拾いをいれてみてはどうだろうか。) ◎地域とのつながりを基にした活動が定期的にある。 ●更なる活動の充実に向けた地域人材の登録と確保が必要である。 ●地域連携の念系をさらに活用し、充実させることで、地域との交流を学校全体で増やしてほしい。	B(3.1)	
	自己肯定感・他者理解の育成	・自分のよさに気付く指導 ・お互いのよさを認め合う指導	93	93	76	◎担任が確認できない場面での活躍を全職員でカバーし賞賛することで、児童の自己肯定感が高まった。 ●より高い価値行動を知り、実践させる指導が必要である。 ◇各担任の賞賛だけではなく、児童同士、学校全体での賞賛や周囲への周知をすることで自己肯定 ◎月1回のなかよしタイムや異学年交流等の場を設けたことで互いにふれあう機会が増え、互いを思いやる姿が見られた。	B(87)	◎小規模校ならではの目が届きやすい環境を活かしていただきたい。 ◎先生方全員で児童一人ひとりのことを認めていく姿勢が十分に伝わってくる。 ●以前に比べ、コミュニケーション力が弱くなっているように感じる。	B(3.3)	
	思いやりの心の育成	・友達に優しくしたり、してもらったりする態度の育成	97	98	76	◎ 児童に身にかけてほしい健康習慣の目標を周知し、保護者と学校の共通理解を図る。また、児童が主体的に行動できるよう、健康な生活や病気の治療の必要性について指導を実施する。 ◇ 3学期から、仲良しタイムを週1回に拡大し、上手なふれあいの仕方を学ぶ時間として活用していきたい。	A(90)	◎世話好きの児童が多いように感じる。 ◎全校児童が仲間意識をもって学校行事などに取り組んでいる。 ◎友達のことを気かけるとよいことだが、何事もやりすぎはよくないと感じる。 ●相手に対して、思いをはせることができず、トラブルになったり、誤解を招いたりしている。	A(3.9)	
体育・健康教育の充実	基礎体力の向上・意識の向上	・体育科学習、体育活動の充実	95	85	100	◎ 体力テストのアンケート結果から、9割以上の児童が体育科が楽しいと答えている。 ● 一人一人の体力向上を目指す。 ◇ 児童が体を動かす楽しさを味わう体育授業や体育的行事を創造し、体力向上につなげる。	A(93)	◎三者共通評価で素晴らしいと思う。 ◎授業だけでなく、休み時間も校庭で活動する姿がよく見られる。	A(3.7)	
	学校保健・健康教育の充実	・健康的な生活習慣の定着 ・感染予防指導	81	86	63	◎ 各学級で学級活動やパワーアップ週間を通しての規則正しい生活習慣の指導、窓開けやマスク着用などの感染対策に取り組むことができていた。 ● 保護者への周知が不十分だった。 ◇ 児童に身に付けてほしい健康習慣の目標を周知し、保護者と学校の共通理解を図る。また、児童が主体的に行動できるよう、健康な生活や病気の治療の必要性について指導を実施する。 ◎ Sigfyを活用しての治療の呼びかけや治療のおすめ再発行により、歯の治療に取り組んでくたさっている。	B(77)	◎エアコンのおかげで、健康的な環境になっていると思う。 ◎集団の場なので感染罹患の発生を防ぐことは難しいが、拡大は最小限で抑えることができていくと思う。 ●肥満気味の場が多い。食育の必要性がある。健康や運動が気になる。 ●保護者地への周知は、もう少し、sigfy等を使うべきである。	B(2.9)	
		・保健指導、健康教育の充実(病気治療、虫歯治療)	90	89	88	◎ 病気の治療、特に歯の治療率が現時点で30%である。 ◎ 学校保健委員会等を通して、家庭での児童の様子から、保護者の方が課題だと感じていらっしゃるということについて実態把握を行い、実態に基づいて課題解決に基づいた取組を実施していく。	B(89)	◎詳細を知っていないので、評価が難しいところだが、児童を見る限り、比較的健康であると見ている。 ●虫歯の治療率については、以前からの課題である。なかなか改善しないが、今後とも、粘り強く継続して指導をしてほしい。	B(2.9)	
地域連携	学校教育活動の発信	・各種通信(学級通信、保健通信、学校通信、学校ホームページ)による発信	87	92	63	◎各種通信等で教育活動の様子を発信することにより家庭や地域の理解や協力が図られた。 ●多忙期になると発信が送れる時があった。 ◇今後も各種通信による教育活動の積極的な発信に努めていく。	B(81)	◎学校通信や運営協議会等に参加する中、児童の状況や学校運営の実情が理解できた。 ◎学級通信等、丁寧に書かれていると思う。 ◎学校の情報を委員にも発信していただき、学校の活動がよく理解できる。 ●コロナ以降、地域の繋がり、保護者同士の繋がり之急に無くなってしまった。 ●保護者や地域の方々がホームページを見やすく、見たくなるように幅広い視点で工夫したい。	B(3.1)	

※自己評価については、児童・保護者・教師の回答結果を平均し、90以上をA、60以下をCで判定している。

※学校関係者評価は、評価をAを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点とし、全関係者の評価の平均をもとに、提示している。